

令和5年6月2日

保護者の皆さんへ

しらぎく幼稚園
園長 東海林 肇

園長だより「かけはし」

6月は旧暦で「水無月（みなづき）」とも言います。梅雨なのに水が無いというのも不思議ですが、田んぼに水を張る月という意味の水な月という説が有力です。この場合の「無」は無いという意味ではなく「の」という意味合いで使われており、「無」は当て字のようです。ですから「6月は水の月」ということで今月は雨の降る日が多いと思います。体調管理には十分気をつけて生活してください。

「思い続けること」

二ヶ月以上前の話で恐縮です。今回いろいろなエピソードを引用させてもらいつつ、栗山英樹監督についてのお話をさせていただきます。現在北海道の栗山町内に自分の名前と地名にちなんで作った栗の樹ファームという少年野球専用の施設があります。ここではバットの原材料になるアオダモの苗も植えられています。20年前に開場した時から植えてあるそうですが、10年、20年で育つものでなく大きく育ててバットになるのは、何十年も先だということです。栗山監督はそれくらい先のことまで見据えて野球の今後のことを真剣に考えている人物です。そしてWBCでも



それだけの思いを選手に対して、野球に対して注ぎ続けていたので、今回のジャパンも終わってみると結局、栗山監督が思い描いていた通りの結末を迎え、色々なものを手繰り寄せたのだと思います。野球は運に左右されるスポーツでもあります。もちろん、技術的なことや、勝つための作戦は沢山ありますが、一人一人の力ではコントロールできないような運や流れが勝負所であります。栗山監督に関していえば、究極の勝負の場面で必ずいい方に転がっていくような不思議な瞬間があつたと思います。日頃の野球に対する思いが「野球の神様」を振り向かせ、運すら味方につけたのだと思いました。そう考えると、世界一は必然だったのかなと思います。そしてまた、運命的な導きだった日本ハム入団時から、周囲の誰もが反対した二刀流を実現させた二人三脚は、世界の舞台で師弟の絆によるドラマも紡ぎました。熱く語ったところで無理やり話をもってきて申し訳ありませんが、子育ても思い続けることが大切だと思います。子どもと接していると山あり谷ありの毎日だと思います。ましてや子どもが自分の思い通りの方向に進むものでもありません。でも子どもへの愛情を絶え間なく注ぎ続け、思い続けることによって親の愛情が子どもに伝わっていくはずだと思います。それが一番大切なことだと思います。子どもをいつまでも信頼し続けていってください。WBCの余談としてもう一つ。

「現実的な話とは思えなかった」栗山監督の予言。これは城石コーチが語っていた話です。2月の宮崎での強化合宿中の雑談のなかで、栗山監督がふとこんな言葉を口にしていました。「世界一になる瞬間に、あるピッチャーがマウンドでガッツポーズしているイメージが思い浮かんでいるんだよ」名前を明かさなかった「あるピッチャー」が、大谷であることは間違いのないと思っていたし、他に誰がいる？絶対に翔平だろ、って。ただそれを聞いた時、僕には現実的な話とは思えなかったんです。決勝の最後に翔平が投げる？まさか、と。ただ実際にあの最終回のマウンドに翔平が上がった時、1点差でしたが、追いつかれるかもしれない、という心配は一切ありませんでした。もうこのまま試合が終わるんだらうな、こうやってストーリーが完成するんだらうな、と確信していました。そして皆さんがご存じのように『野球の神様』が脚本を書いたかのような劇的なストーリーで歓喜の大団円を迎えました。保護者の方も子どもたちの将来を思い描き「寄り添い」「見守りながら」「幸せを祈りつつ」思い続けていってください。